

社会科を学ぶための2つの軸

「漬物の歴史」を考える

社会科を学ぶための2つの軸

グループ学習の準備と隊形

- ① 4人で1組のグループを作る。
- ② 机と机をくっつけて、真ん中に記録用のボードとペンを置く。
- ③ グループ活動(話し合い)で発表された意見をボードに書く。
- ④ グループ活動で出た意見を、グループの代表が学級全体に発表する。

グループ学習のルール

1グループ 4人

- ① 始めに「進行役」と「全体での発表者」を決める。
- ② 発言をささげないで、話している人の話を最後まで聞く。
- ③ 聞く人は、話す人を見てうなずきながら聞く。
- ④ 話す人は、他の人の意見と比べて(違うのか・同じなのか)、自分の意見をわかりやすく説明する。
- ⑤ 他の人の意見を批判しないで、対案を出したり、追加案を出すこと。
- ⑥ 時間を守る。終わりの合図でやめる。

グループ活動の班編制

プロジェクター				前の黒板			
教卓							
1班	7	13	19	25	31		
2班	8	14	20	26	32	37	
3班	9	15	21	27	33	38	
4班	10	16	22	28	34	39	
5班	11	17	23	29	35	40	
6班	12	18	24	30	36	41	
7班							
8班							
9班							
10班							

食べ物から歴史を考えよう

次の3つの漬物は、歴史的に登場してきた時代が異なります。
3つの漬物を歴史的に古い順に並べてください。

- ・たくあん
- ・福神漬け
- ・奈良漬け

グループ学習 8分
全体発表 20分
(各班2分)

社会科を学ぶための2つの軸(条件)

- ① 必要な条件は何か
- ② 可能にする条件は何か

グループ学習で考えてみよう

- ① はじめに、1人で考える。
- ② 4人グループになって、意見を交換する。
- ③ それぞれ自分の「答え」を考えついた理由を説明する。
- ④ グループで出た意見をまとめる(4人の結論が同じである必要はない)。
- ⑤ 全体にグループで出た意見を発表する。
- ⑥ ノートに自分の意見をまとめる。

グループ活動の班の配置



たくあん

- ダイコンを米ぬかと塩につける。



福神漬け

- ダイコン、ナス、ナタマメ、レンコン、キュウリ、シソの実、シイタケまたは白ゴマを調味液につける。



奈良漬け

- うり、キュウリ、スイカ、ショウガなどの野菜を酒かすにつける。



ダイコン



原産地は不明。
日本では弥生時代から栽培された。
奈良時代に編纂された『風土記』に、
奈良時代の食べ物として記載がある。

ナス



・原産地はインドの東部が有力である。日本では、奈良時代には食べられていた記録が残っている。



ナタマメ



アジアかアフリカの熱帯原産。江戸時代の初めに渡来。江戸時代(元禄)の農業書に栽培法が記載されている。

レンコン



原産地は中国もしくはインドと言われる。縄文時代から食べられていた。平城京の市で売られていた価格の記録が残されている。

キュウリ



原産地は、インド北部、ヒマラヤ山麓と考えられている。日本では、平安時代には栽培されていた記録が残っている



シソ(シソの実)



日本では、縄文時代から食べていた。福井県鳥浜貝塚の発掘調査では、縄文時代には栽培されていたという研究報告がされている。

シイタケ



鎌倉時代の記録に、食用植物の一つとして数えられている。

白ゴマ



インドが栽培ゴマの発祥地であるといわれる。
日本では、平安時代の『延喜式』(927年)で諸国
物産にあげられている。

瓜(うり)



原産地はアフリカ北部？。
縄文時代の遺跡から種子が発見される。
広辞苑には、万葉集の「うり食(は)めば子ども思
ほゆ」と和歌の一部が紹介されている。
奈良時代には漬物の野菜として記録がある。

スイカ(西瓜)



原産地は、アフリカのサバンナ地帯や砂漠地帯。
江戸(享保)時代の『近代世事談』によると「寛永年中に琉球より
薩摩へわたる」「寛文延宝の間、長崎より大坂へ」伝えられたとさ
れる。

ショウガ



原産地は熱帯アジアらしいが厳密には不明。
日本には中国から入ったとされる。
奈良時代には栽培が行われていたようである

酒(日本酒)



縄文時代には果実酒が作られた。
倭人(日本人)は酒を好むと、『魏志』「倭人伝」は残す(弥生時代)。
奈良時代には日本酒が誕生していた。